

令和8年度 全国学力・学習状況調査の概要について

◇教科（国語・算数）に関する調査の結果の概要及び改善の方向について

教科	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
国語	◎知識及び技能 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 ・全国平均を上回っている。 【情報の扱い方に関する事項】 ・全国平均を上回っている。 ◎思考力、判断力、表現力等 【話すこと・聞くこと】 ・全国平均を上回っている。 【書くこと】 ・全国平均を上回っている。 ▶ 1 【読むこと】 ・全国平均を上回っている。	▶ 1 全国平均を上回っているが、他の設問に比べると正答率は低い。知識はあるものの、それを自分の言葉として表現・構成することに少し難しさを感じている可能性がある。	◆ 1 「構成メモの工夫」の理解力を生かし、メモを作ることが書くことへの近道であることを再認識させ、「何のために（目的）」「誰に（相手）」「どんな順番で（構成）」書くのかなどのメモを意識的に使う練習を繰り返す。 ・強みである「話し合い」の力を使って、書いた文章を読み合い、「伝わったか」「どこが分かりやすかったか」を話し合う場を設ける。「自分が書いたものが相手にどう伝わったか」を体感することで、客観的な表現力が養われる。

教科	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
算数	【数と計算】 ・全国平均を上回っている。 【図形】 ・全国平均を上回っている。 【測定】 ・全国平均を上回っている。 ▶ 1 【変化と関係】 ・全国平均を上回っている。 【データの活用】 ・全国平均を上回っている。 ▶ 2	▶ 1 割合・単位量当たりの大きさについて、他の問題に比べて全国平均との差が小さく、伸び悩んでいる。 ▶ 2 全国平均は上回っているものの、他の領域に比べて正答率自体が低い数値となっている。帯グラフの特徴を理解し、およその割合を正しく読み取って判断する力が不足している可能性がある。	◆ 1 強みである「知識・技能」を活かし、多様な考え方や解決プロセスを比較・検討する場面を設ける。「なぜその式になるのか」「どの方法が効率的か」をペアやグループで対話させ、自分の考えを数学的に表現する力を養う。 ◆ 2 グラフや表などのデータを扱う際、数値を読み取るだけでなく「グラフからどのような傾向が読み取れるか」「なぜそのように判断したのか」を言葉や数式を用いて説明・記述させる活動を意図的に取り入れる。

◇生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果について

【注目すべき質問項目】 %は、肯定的な回答をした本校児童の割合です。()内は全国平均です。

- 道徳の授業への主体的な取り組み**；「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が91.9%と、全国平均(86.9%)や北海道平均(88.2%)を上回っている。特に「当てはまる」と回答した割合が大きく上回っている。(本校79.0% 全国平均47.4%)
- 先生が自分のよいところを認めてくれている実感**；「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で「当てはまる」の割合が67.7%(全国平均53.4%)、「やや当てはまる」を含めると90.3%と高く、友好的教師・児童関係が築かれている。
- 国語の有用性への意識**；「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が96.8%と、全国平均(90.4%)や北海道(92.2%)を上回っている。また、教師の関わりを受けて自分の考えが伝わるように工夫したり、考えをまとめたりできるようになったと考えている児童の割合が多い。
- ▲**いじめに対する意識の強さ**；「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」で最も強い肯定である「当てはまる」の割合が74.2%であり、全国平均(81.1%)を下回っている。「どちらかといえば当てはまる」を含めると大きな差はないが、強く断言する割合が弱めである。
- ▲**睡眠・生活リズムの乱れ**；「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、「当てはまる」が50.0%(全国平均40.5%)と高い一方で、起床時刻も含め、生活習慣の安定性にばらつきが見られる。また、平日におけるSNSや動画視聴などの時間が「4時間以上」と回答した児童が12.9%(全国平均21.9%)よりは低いものの、長時間利用している児童もいる。

肯定的な回答の割合が高い項目が多く見られました。ICTの活用については、情報を収集したり、文章を作成したりという項目で全国平均を大きく上回っていましたが、また、5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んだり、各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたりなど、積極的に学習に向かっていた様子も伺えました。また、読書習慣についても全国と比較して若干高い割合を示しています。学校の図書館は積極的に利用しています。本校は、専科による外国語の授業を行っていますが、英語の勉強が得意、英語の勉強が好き、と回答した児童の割合も高いです。

今回の結果は、6年生の回答ではありますが、学年に関わらず、今後も、安心して学び合える学級づくりをさらに進めるとともに、学習の振り返りを次に繋げられるような授業づくりや学習支援を継続していきます。